

院はこの「救急病棟」で対応します。

一般病棟への夜間緊急入院は、他の患者さんの安眠を妨げるだけでなく、看護スタッフが緊急入院の患者さんの治療に時間を取られ他の患者さんの看護が手薄になるという弊害もあります。当院では専用の「救急病棟」を用意することで、こうした弊害を改善します。

重症患者さんの治療に当たるICU・CCU

救急病棟のある3階には、手術室と直結したICU(集中治療室)/CCU(冠動脈治療室)10床も用意しました(図3中央)。急性心筋梗塞のカテーテル治療直後など、より重症の救急患者さんや緊急手術後の患者さんの治療はここでを行います。

このフロアには、緊急手術の患者さんのご家族用も含めて、ご家族用の控え室を独立して2室用意しています。患者さんの容体が落ち着くまで、ご家族にも快適な環境で待機していただけるようになります。

2 「画像診断センター」機能

1階に集約された画像診断部門

新病院における画像診断部門として、放射線検査部門(CT2台、MRI1台、血管カテーテル検査1台、X線透視3台、乳腺撮影2台、一般撮影3台)と、内視鏡検査室3室、生理検査室内のエコー検査室3室があります。

これらの検査部門はすべて1階に揃い、外来診察室群、中央処置室(点滴、注射・採血)、救急センター等に隣接し、これらの部門に取り囲まれるように配置されています(図2)。外来患者さんも入院患者さんも、必要なすべての検査が、同一フロアで短い動線の中、順番に行えるようになっています。

現時点で日本一の体制となる

「64列マルチスライスCT2台体制」

ここ数年のCT検査機器の進歩はめざましいものがあります。特に、同時に複数の断面(スライス)を撮影できるマルチスライスCTでは、スライス幅が極限まで薄くなり、そのため高解像度の美しい画像が得られるだけでなく、高速撮影が可能のため、患者さんの息止め時間や撮影時間が大幅に短くなりました。また、コンピュータの三次元処理により、3D(立体)画像が簡単に作成でき、狭心症診断のための冠動脈像(写真1)や、クモ膜下出血の原因となる脳動脈瘤の有無を診断する脳動脈像(写真2)など

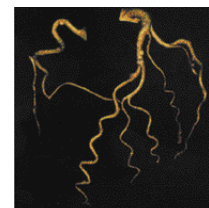


写真1

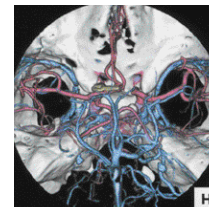


写真2